

平成 29 年度 学校評価結果公表シート

はつしば学園幼稚園

1. 本園の教育目標

学園の理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」に基づき、“遊び・発見・学びの根っこを育てよう”に取り組めます。

教育方針

- ・日常生活の正しい習慣を身につける。
- ・身近な集団生活に適応できる規律と勇気を持たせます。
- ・まわりの自然や社会に関心を持たせる。
- ・思った事を素直に話し、人の話をよく聞きわかるようにする。
- ・自由な表現活動を重視し創造性を豊かにする。

幼稚園訓

- は** いとげんきにあいさつへんじ
- つ** よいからだをつくります
- し** っかりはなしをきける子に
- ば** がんばるみんなははつしばっ子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・正課授業の安定化を図ると共に、課外教室を幅広く周知し、多様な経験を通して『学びの根っこ』を育てていきます。
- ・「しつけの三ヶ条」
 - “朝のあいさつが出来るように”
 - “名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできるように”
 - “履物を自分できっちりそろえるように”
- ・立腰や茶道を通して日常生活の基本的な日常習慣の育成に役立てます。
- ・茶道は引続き裏千家淡交会より講師を招いての指導とさかい利晶の杜へ茶の湯体験を通して、子ども達自身が自分で心と体を整える力をつけさせます。
- ・はつしば学園小学校との連携として、小学校の先生による知育教室、交流会等、具体的な取り組みをすすめていきます。
- ・スクールカウンセリングを引き続き実施し、保護者に子育ての悩みを相談する場を提供し、幼稚園と家庭で園児をサポートする体制を構築します。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園行事は、楽しく充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくデー・運動会・発表会と学期ごとに大きな行事は、子どもの成長が見られ、幼児期の発達段階を知る良い機会となっている。 ・特に、竹合奏等の年長児の演目は、伝統的な要素が魅力のひとつであり、大いに期待されている。 ・異年齢交流の場となるはつしばフェスティバルも、本格的な「お店屋さんごっこ」の展開に親子で楽しみながら、人間関係の幅を広げる体験となっている。
絵画・製作・ワーク学習などの保育カリキュラムに満足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個性や表現力を伸ばす絵画指導により、多くの園児が入賞し、高い評価を受けた。 ・鉄や糊の細やかな使い方やひらがなの学習の成果により、小学校に進学しても、授業に躓かずに取り組んでいると卒園児の保護者の声が聞こえている。
なかよしホームは、保護者のニーズにこたえ、子育て支援の一環として利用しやすい内容となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労家庭の増加に伴い、長期休暇及び午前保育中の昼食について給食対応を望む声が多く、お弁当と給食の選択制へ切り換えることとした。 ・毎月、保育料となかよしホーム利用代金が必要となるため、年度末に補助金で還付されるとしても、月々の負担額が大きいことが課題である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画に対して、教職員全体で共通理解し、自己評価し、取組み状況を通じて各人の課題を具体的に確認することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で積極的な意見交換をすることで、職員間の繋がりを深め、経験の浅い職員に保育技術や園の伝統を伝えていく。 ・学年別の会議を行う中で、週や学期の課題を計画し要点を確認し改善できるもの

	<p>は速やかに保育で実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に積極的に参加し、取り入れながら保育の発展を目指す。 ・学年補助教員及びクラス補助教員の有効的なサポートを職員全体で連携をとり、実施する。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学園ニュースを始め、入園のしおり、園便り、クラス通信、ホームページ等で学園の理念や園の教育活動を発信する。 ・特に法定伝染病の情報は、感染拡大を防ぐ目的としては大いに活用されている。 ・保護者専用ページやはつ幼ムービーなど発信方法についても工夫しながら大いに活用していく。
幼稚園としての預かり保育のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の現場として、質の高い教育を提供しつつ、就労家庭の増加という社会的背景をとらえ、保育サービスの多様化が進む中、預かり保育の在り方を検討していく必要がある。

6. 学校関係者の評価

・特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。保育内容も学年補助教員の配置により、教職員の保育経験による保育の質の格差をなくすことに繋がっている。

・正課授業の発達段階を考慮しながら、園児の学ぶ意欲の向上に繋がるカリキュラムの作成を今後も期待している。

・HPリニューアルの運用については、技術的な面で活用しきれていない部分を強化していく必要がある。

・職員全体が自己点検、自己評価を通じてそれぞれの具体的な課題を設け研修に励んでいる。子どもに多くの成功体験をさせて様々な事に挑戦する強い心を育てられるよう、伝統を継承しつつ、新しい保育にも向上心をもって取り組んでいる。

・預かり保育の見直しは、働く親にとっては園を選択する重要なポイントである。保育料の無償化が保育園・こども園と異なる方法で実施されている現状を考えると、預かり保育に掛かる費用の負担が影響を与えている。又、保育に欠ける子どもの入園が増加しつつあるため、家庭保育の要素も必要になってくると考えられる。

